

1 基本情報

Table with 3 columns: 施策名 (14 魅力創造・発信), 展開方向 (01 まちの魅力を高め、シビックプライドの醸成を図るため、学ぶ機会を増やすとともに、戦略的に発信します。), 担当部署 (総合政策局)

2 目標指標

Table with 12 columns: 指標名, 方向, 目標値 (R4), 実績値 (H25-H30, R1, R2~R4), 進捗率 (R1). Rows A-E show metrics like '市民の割合' and '記事掲載件数'.

3 主要事業一覧

Table listing '令和2年度 主要事業名' and '令和元年度(平成31年度) 主要事業名' with 5 rows for each.

4 市民意識調査(市民評価)



5 担当局評価

Table with 3 columns: 行政が取り組んでいくこと (情報発信力の強化), 総合戦略 (5), 評価内容 (Detailed text describing achievements and challenges in information dissemination).

Table with 2 columns: 令和2年度の取組 (Information dissemination efforts), 主要事業の提案につながる項目 (Items leading to major project proposals).

6 評価結果

Table with 2 columns: 評価結果 (Evaluation results), 評価内容 (Detailed text summarizing the impact and future plans of the initiative).

# 令和2年度 施策評価表(令和元年度決算評価)

施策名: 魅力創造・発信  
 施策番号: 14 - 02

## 1 基本情報

施策名	14 魅力創造・発信	展開方向	02 尼崎城をはじめとしたまちの多様な資源を活用し、市内外の人の交流の促進をめざし、観光地域づくりに取り組みます。
主担当局	経済環境局		

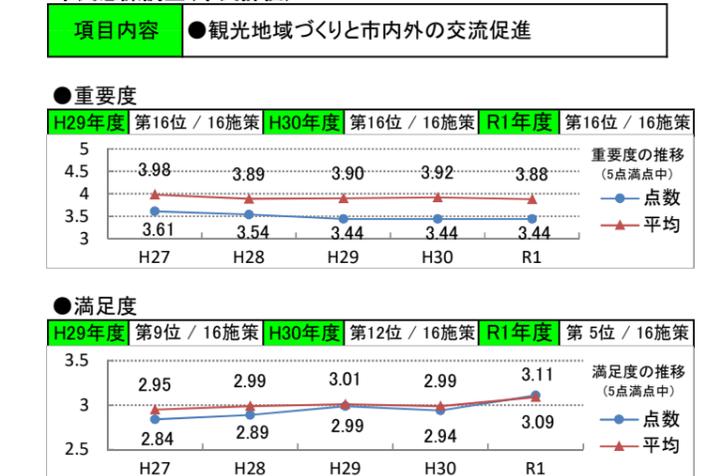
## 2 目標指標

指標名	方向	目標値 (R4)		実績値							進捗率 (R1)	
				H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1		R2~R4
A 市内の観光客入込客数	↑	280.0	万人	209.1	211.0	231.2	240.3	228.1	242.5	259.7		92.8%
B 市内の観光客入込客数のうち、ホテル等宿泊者数	↑	50.0	万人	32.7	36.5	41.1	41.2	44.0	44.8	43.7		87.4%
C 市内の観光客入込客数のうち、尼崎城有料入城者数	↑	R1 15.7万人 R2~10.9万人	万人	-	-	-	-	-	-	14.6		92.7%
D 観光指針における重点取組地域の中心地の地価	↑	397	千円/㎡	372	372	375	379	383	392	410		100%

## 3 主要事業一覧

令和2年度 主要事業名	
1	尼崎城址公園整備事業
2	城内まちづくり整備事業(駐車場整備・管理運営事業)
3	尼崎城魅力向上事業
4	観光地域づくり推進事業(にぎわいづくり事業)
5	
令和元年度(平成31年度) 主要事業名	
1	あまがさき観光局補助金(観光地域づくりの推進)
2	姉妹・友好都市交流関係事業(姉妹都市提携60周年記念事業)
3	
4	
5	
平成30年度 主要事業名	
1	尼崎版観光地域づくり推進事業
2	尼崎版DMO設立事業
3	
4	
5	

## 4 市民意識調査(市民評価)



## 5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和元年度実施内容を記載)	
行政が取り組んでいくこと	● 観光地域づくりと市内外の交流促進
【観光重点取組地域のまちづくり】	<p>(目的)本市のイメージを一新する歴史・文化を取り込んだ観光施策を中心市街地である阪神尼崎駅周辺地区で展開するとともに、地域資源を活かした観光振興を進め、交流人口の増加や経済活性化、シビックプライドの醸成につなげる。</p> <p>(成果)①(一社)あまがさき観光局や尼崎城址公園指定管理者が中心となり、民間事業者とも協働しながらイベント等を開催し、尼崎城来城者の獲得、地域の交流人口増加に向けて取組を実施した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で令和2年3月1日から臨時休館した尼崎城の有料入城者数は14.6万人と目標値を下回ったが、市内の観光客入込客数は259.7万人と前年度より増加した。(目標指標A・B・C・D)</p> <p>②地域一体での観光地域づくりに向け、(一社)あまがさき観光局が中心となった観光プラットフォームを設置し、地域の観光関係者と取組方向や目的、各種データ等を共有しながら、観光に係る提案など意見交換を行った。(令和元年度2回開催)(目標指標A・B・C・D)</p> <p>③全国城郭管理者協議会の研修会を本市で開催し、全国31城の城郭管理者と情報共有を図った。また、3都市4城連携の取組として、本市で「尼崎城ゆかりの城シンポジウム」を開催する等、他都市との連携の強化を図った。(目標指標C)</p> <p>④尼崎城のPRとシビックプライドの醸成を目的に、市内小学生を尼崎城へ無料招待した結果、2,319人の入城があった。(目標指標C)</p> <p>⑤尼崎城への新たな来城者を獲得するため、指定管理者による尼崎城公式サイトや公式SNS(フォロワー数:ツイッター493人、インスタグラム254人)を活用した情報発信のほか、「踊るあまがさき」(参加者1,700人)や「震えるあまがさき」(200人)等、話題性のあるイベントを実施することでPRを図った。(目標指標A・B・C)</p> <p>⑥ツーリズムEXPOジャパン(4日間来場者数約15万人)やお城EXPO(2日間来場者数約1.8万人)への出展、韓国での商談会や台湾旅行博への参加等国内外での観光プロモーションを実施し、今後の来訪者やインバウンドの獲得に向けた布石とした。(目標指標A・B・C)</p> <p>⑦尼崎城をはじめとする重点取組地域内の地域資源への円滑な案内及び誘導を目的とした「観光誘導サイン整備基本計画」に基づき、まずは阪神尼崎駅、寺町、尼崎城に総合案内サイン(2基)、エリアサイン(4基)、誘導サイン(4基)を設置した。(目標指標A・B・C・D)</p> <p>⑧尼崎城天守の内部展示の更新や大規模修繕等に必要な財源の確保と、尼崎城への愛着、シビックプライドの醸成を目的とする「みんなが尼崎城主寄附制度」を新たに創設した。(令和元年度末時点41件188万円)(目標指標C)</p> <p>⑨城内地区への来訪者を受け入れるため、令和2年10月に供用開始予定の城内地区駐車場の設置に向けた調整を行った(尼崎市立城内地区自動車駐車場の設置及び管理に関する条例を制定)。(目標指標A・B・C)</p> <p>⑩開明庁舎の短期的な活用として、(公財)尼崎地域産業活性化機構が尼崎創業支援オフィス「アビーズ」や創業塾等卒業者のさらなるチャレンジの場として、事業者によるカフェの運営が開始できるよう同庁舎1階の一部を整備した。(目標指標A・B・C)</p> <p>⑪尼崎城址公園内の桜園地整備のため、用地交渉を行い、一部の土地の買収がまとまった。(目標指標C)</p> <p>(課題)①②新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、将来の観光需要回復に向けた方向性や取組を検討する必要がある。</p> <p>①②令和2年10月にオープンする尼崎市立歴史博物館や寄贈を受けた尼子騷兵衛氏の資料展示など、関係部局が地域の観光関係者と密に連携し、重点取組地域の周遊につながる一体的な取組を行う必要がある。</p> <p>③~⑥継続的に来訪者を獲得していくため、尼崎城を中心とした地域資源の魅力を積極的かつ効果的にPRする必要がある。</p> <p>⑧尼崎城天守の魅力向上や維持管理に寄与する寄附金の継続的な運用が図れるよう魅力的な基金活用や募集方法の検討が必要である。</p> <p>⑨城内地区駐車場整備後の運用方法や施行規則等を関係部局と調整のうえ、定める必要がある。</p> <p>⑩開明庁舎の空き床について、重点取組地域の拠点となる賑わいを創出するためのさらなる活用方法を検討していく必要がある。</p> <p>⑪尼崎城址公園の用地交渉については、引き続き整備完了に向けて交渉を継続していく必要がある。</p>
【データに基づく観光プロモーション】	<p>(目的)観光面での尼崎に対する評価や魅力の有無を検証するとともに、今後の施策展開にあたっての方向性やターゲットを定める。</p> <p>(成果)⑫尼崎城をはじめとした重点取組地域内における来訪者の動向等を把握するため、地域内14か所に設置したWi-Fiバケットセンサー解析システムを活用した流動調査や、街頭調査を通して来訪者の移動状況や各施設での滞在時間、また通常時とイベント実施時の人の流れの違いを分析し、地域の人の流れを把握(可視化)することができた。(目標指標A・B・C)</p> <p>(課題)①②⑫可視化されたデータから、人の周遊を促すための施策を検討・実施し、その結果や効果を地域で共有するとともに、PDCAを回していくことが必要である。</p>
【姉妹都市・友好都市との交流】	<p>(目的)姉妹都市(アウクスブルク市)・友好都市(鞍山市)との友好交流を深め、本市における国際交流の発展に寄与することを目指す。</p> <p>(成果)⑬「姉妹都市提携記念60周年記念事業」では、姉妹都市提携60周年記念式典に、尼崎市代表団を派遣するとともに、(一財)山岡記念財団の支援を受けて高校生吹奏楽部30人が現地高校生とともに演奏会を実施したほか、市民団などが記念式典などに参加し交流を深めた。友好都市鞍山市とは、尼崎市青少年使節団を鞍山市へ派遣し、卓球をテーマに交流したほか、両市青少年による芸術交流展を実施した。また、姉妹・友好都市交流活動を行った団員が「みんなのサマーセミナー」で成果を発表し、市民へ還元する機会を提供できた。</p> <p>(課題)⑬姉妹都市・友好都市との交流については、使節団の派遣・受入以外の交流方法や交流成果の発信手法などを検討し、交流をさらに広げていく必要がある。</p>

## 6 評価結果

令和2年度の取組	
【観光重点取組地域のまちづくり】	<p>①②(一社)あまがさき観光局にて登用する民間人材を中心に観光マネジメント機能を発揮し、地域の観光関係者との連携を強化していくとともに、新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、観光客数の回復を図る取組に注力する。</p> <p>⑩開明庁舎の短期的な活用方法として、空き床を臨時的にイベント会場等で活用するなど、周遊の拠点となるよう賑わいを創出していく。</p> <p>①②関係部局との連絡調整の場を設置するなど連携を密にし、10月に新しくオープンする歴史博物館、寄贈を受けた尼子騷兵衛氏の資料展示など、地域一体となって来訪者を獲得し周遊を促進していく取組を強化する。</p> <p>①②⑥昨年度導入した多言語情報配信サービスを活用し、各種印刷物等と連動させ、外国人観光客の受入基盤を整備していく。</p> <p>①⑧尼崎城魅力向上のため、基金を活用した展示の充実を図る。</p> <p>⑦観光誘導サイン整備基本計画に基づき、連携取組により周遊を促す箇所を優先しサインを設置していく。</p> <p>⑨城内地区駐車場を整備し、受付や徴収等の運用方法、施行規則を制定する。</p> <p>⑪買収が完了した公園北東部について、イベント等に応じて活用できるスペース及び桜園地を整備するほか、公園北側、東側の道路整備等を行う。また、未取得の計画地について、引き続き用地交渉を行う。</p>
【データに基づく観光プロモーション】	<p>⑫(一社)あまがさき観光局が登用する外部人材を中心に、観光のエリア戦略で定めるターゲットに向け、必要とするデータやその収集方法等を検討するとともに、指定管理者とも連携・役割分担を図り、尼崎城への来城者獲得及び地域への周遊促進につながる有効かつ効果的な事業を展開していく。</p>
【姉妹都市・友好都市との交流】	<p>⑬アウクスブルク市への尼崎市青年使節団の派遣については、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて令和2年度は見送り、来年度実施する。また、鞍山市青少年使節団の受入れについても、今後両市で調整を図りながら見送る予定としている。</p> <p>⑬新型コロナウイルス感染症の状況について姉妹・友好都市と情報交換し、お互いの状況を知り励まし合うことによりさらに交流を深める。また、オンラインを使った姉妹都市交流も検討していく。</p>
主要事業の提案につながる項目	
【観光重点取組地域のまちづくり】	<p>①②③⑤新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、外国人観光客を含めた将来の観光需要回復に向け、国や県をはじめ、他都市、大阪観光局等の関係機関と連携した観光情報の発信や観光基盤の整備等を検討する。</p>

・尼崎城については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で臨時休館したこともあり、目標の有料入城者数には届かなかったものの、様々な観光関連イベントを実施したことにより、多くの人の来城につながった。

・観光地域づくりの推進に向けては、新たに設置した観光振興課を事務局として、庁内関係部局や関係団体による観光連携会議を立ち上げるとともに、(一社)あまがさき観光局において、民間人材の事業部長を採用するなど体制を強化した。

・今後は、新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、本市や伊丹市など近隣5市による「日本酒」をテーマとしたストーリーの日本遺産への認定や歴史博物館の開館を機に、国・県の景気回復キャンペーンとも連携しながら、落ち込んだ観光客入込客数の回復や地域の周遊促進を図る取組を実施する。

・また、観光関連イベントについては、成果の検証に必要なデータを整理・収集し、事業目的ごとに費用対効果を統一的に検証することで、今後の尼崎城の来城促進や城内地区、寺町、中央・三和商店街といった「重点取組地域」の賑わいづくりへつなげていく必要がある。

# 令和2年度 施策評価表(令和元年度決算評価)

施策名: 魅力創造・発信  
 施策番号: 14 - 03

## 1 基本情報

施策名	14 魅力創造・発信	展開方向	03	まちの魅力と活力を高めるため、地域の文化資源の活用を促進するとともに、新たな文化芸術活動の担い手を育成します。
主担当局	総合政策局			

## 2 目標指標

指標名	方向	目標値 (R4)		実績値							進捗率 (R1)	
				H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1		R2~R4
A 尼崎市総合文化センター及び本市が実施した文化芸術事業への参加者数	↑	349,000	人	318,952	307,903	314,915	302,975	304,420	287,010	292,057		83.7%
B 尼崎市総合文化センター稼働率	↑	55.0	%	41.0	40.0	46.0	46.0	45.0	42.5	38.4		69.8%
C 若者支援を対象にした文化芸術事業への参加者数	↑	4,950	人	425	362	2,226	3,515	3,583	4,369	4,896		98.9%
D 尼崎観光特使来庁回数(出席数)	↑	18,000	回	1,842	3,467	5,611	8,282	9,675	10,732	14,311		79.5%
E												

## 3 主要事業一覧

令和2年度 主要事業名	
1	尼子騷兵衛作品等資料収集・調査・活用事業
2	
3	
4	
5	
令和元年度(平成31年度) 主要事業名	
1	郷土画家「白髪一雄」発信プロジェクト事業
2	
3	
4	
5	
平成30年度 主要事業名	
1	若者の夢創造・発信事業
2	
3	
4	
5	

## 4 市民意識調査(市民評価)



## 5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和元年度実施内容を記載)	総合戦略	⑤
<p>行政が取り組んでいくこと ■新たな魅力づくりによる文化振興</p> <p>【文化活動の場づくり】                      (目的)(公財)尼崎市文化振興財団を文化振興の中核と位置付け、市民の文化活動を推進することで、本市文化の向上発展を図り、まちの魅力と活力を高める。                      (成果)①文化振興を進めていく仕組みづくりとして、文化ビジョンに基づく事業評価や、新たに文化振興基金を活用した事業の実施に取り組んだ。                      ②(公財)尼崎市文化振興財団と連携し、同財団及び尼崎市総合文化センターの今後のあり方について検討を進める中で、総合文化センターの耐震化等の施設改修に向けた検討を行った。また総合文化センターにおいて開催した音楽・バレエ・演劇、古典芸能などの事業や、市展や文芸祭などの文化振興事業、本市の文化芸術事業を通じて市民の文化芸術体験や活動を支えるとともに、一般公開された尼崎城において、文化庁の文化芸術振興補助金を活用して尼崎城新館を実施し、延べ1,200人が来場した。(目標指標A・B・C)                      ③「第7回近松賞」受賞作品について、劇団「青年団」に制作を依頼し、上演する予定が、新型コロナウイルス感染予防のため延期となった。また白髪一雄発信プロジェクトとして、青森県立美術館で本市が共催して特集展示を行い、22,896人が来場、東京オペラシティアートギャラリーで開催の展覧会に特別協力として参加し、8,246人が来場した。(目標指標A)                      ④市民芸術賞1名と文化功労賞2名を顕彰した他、若手芸術家を応援する第2回目の文化未来奨励賞を1名選定した。また、第1回目の文化未来奨励賞の受賞者の発表を行い、来場者数が9,906人であった。                      (課題)①本市の文化振興を進めていくため、平成30年度に創設した文化振興基金の周知に努める必要がある。                      ②総合文化センターの耐震化等を進めていくため、施設整備の内容や手法、財源確保、効果的な運営などについて、引き続き財団と連携を図りながら、検討・調整を行い具体化していく必要がある。また総合文化センターの改修中及び改修後の文化事業の展開について検討する必要がある。                      ③海外でも評価の高い白髪氏の作品や本市に所縁の深い人物として、継続して全国にプロモーションしていく必要がある。                      ④市民に優秀な作品を目にする機会を提供するため、文化未来奨励賞の受賞者の発表の場や方法を検討する必要がある。また、市民をはじめ、広くPRしていく必要がある。</p> <p>【若者の夢の応援】                      (目的)若年層をはじめとした市民に芸術や地域文化を発信し、その魅力に触れてもらう機会の充実を図ることで、次代の担い手を育成する。                      (成果)⑤「ティーンズサポートチケットPR事業」では、公演数と共に内容もミュージカルなど若者が興味を持つものが増え、応募者数が107人に増加した。(目標指標C)                      ⑥市・山岡記念財団・教育委員会の3者主催、尼崎市文化振興財団共催で、音楽家の大植英次氏が指導を行う公開レッスン&amp;コンサートを実施した。参加学生や来場者に対して、音楽のすばらしさを分かち合う機会を提供できた。(目標指標C)                      ⑦「あまらぶアートラボ運営事業」では、展覧会を5回、関連イベントを11回、トークイベントを7回実施した。夏休みのグループ展では、来場者が写真を撮りたくなるような工夫を凝らし、SNS等で情報発信しやすい展示内容となった。また、来場者が作品に触れながら施設を周遊して楽しむ展覧会を開催した。その他、姉妹都市であるドイツのアウクスブルク市に若手アーティストを派遣し、世界へ飛躍するチャンスを提供できた。(目標指標C)                      ⑧「尼崎落研選手権」は11大学の落語研究会が腕を競いあい、若者のチャレンジを応援できた。地元ケーブルテレビで番組化した他、参加大学が小学校で授業を行い、子ども達が伝統芸能に触れる機会を提供した。また、キューズモールで学生寄席を企画していたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止となった。(目標指標C)                      ⑨市内在住の漫画家・尼子騷兵衛氏により描かれた原画や外国語に翻訳された漫画を中央図書館100周年記念として展示し、8,247人が訪れた。また「忍たま乱太郎」ゆかりの地名をめぐるファンへのおもてなしとして行ってきた「影の尼崎観光特使」は登録者数が8,000人となり新規登録を終了したが、「光の尼崎観光特使」の登録者数は1,299人となった。加えて、ミュージカル「忍たま乱太郎」尼崎公演やシールラリーの実施により、市外から多くの方が尼崎を訪れた。(目標指標C・D)                      (課題)⑦出張ワークショップは人気の企画となり、申込者が殺到したが、展覧会等アートラボの集客につながっていないため、興味を持ってもらう工夫をしていく必要がある。                      ⑧学生寄席が中止になったため、自宅でも楽しめるメニューについて検討する必要がある。                      ⑨尼子事務所が所有する資料の保存・活用についての協定を結び、集客を見据えたイベントや情報を発信していく必要がある。また「影の尼崎観光特使」の新規登録受付が終了したこともあり、今後来庁回数の増加率は減少していくことが見込まれる。引き続き尼崎を訪れる方に楽しんでいただくための運用方法の検討が必要である。</p>		

## 6 評価結果

令和2年度の取組
<p>【文化活動の場づくり】                      ①文化振興を着実に推進していくため、文化振興基金のPRIに取り組む。                      ②総合文化センター耐震化等の着手に向け、整備内容や手法について調整するとともに、指定管理者制度導入や、今後の文化事業の展開等について財団と協議・検討を進める。                      ③白髪一雄発信プロジェクトとして、高松市美術館での特集展示を行う。                      ④文化の担い手である子供たちを対象としたプログラムを検討し、ワークショップや公開制作等を行うよう調整する。</p> <p>【若者の夢の応援】                      ⑦新型コロナウイルス感染症の状況に注視しながら、引き続き地域での出張ワークショップやオンライン展示A-Lab@Homeも実施しながら、アートに身近に触れていただく機会を提供し、展覧会にも興味を持って来てもらえるようなPRIに努める。                      ⑧市内小学校の他に、オンラインで寄席を発信するなど自宅でも楽しめる寄席も発信していく。またショッピングセンターなど学生寄席を披露する機会を設ける。                      ⑨全国で初めてとなる尼子騷兵衛氏に焦点を当てた展覧会の開催については、新型コロナウイルス感染症の影響により来年度に延期し、今年度はより効果的な展覧会となるよう準備を進める。また光と影の尼崎観光特使のほか、忍たま乱太郎グッズ展やトークイベントなど尼崎を訪れる方に楽しんでいただくメニューを検討する。</p>
主要事業の提案につながる項目

・文化振興については、コロナ禍の取組としてオンライン展示A-Lab@Homeを実施した経験を活かし、Web環境を通じた情報発信を、本市の文化・芸術・芸能の新たなPR手法として位置づけ、今後の文化事業の実施における活用を検討するとともに、観光施策においても同様の情報発信手法について検討していく。

・また、新型コロナウイルス感染症の状況を見定めつつ、尼子騷兵衛展を開催するなど、全国へ尼崎の魅力・文化資源を発信し、市内外の交流や観光地域づくりを促進する取組を進めていく。

# 令和2年度 施策評価表(令和元年度決算評価)

施策名: 魅力創造・発信  
 施策番号: 14 - 04

## 1 基本情報

施策名	14 魅力創造・発信	展開方向	04	まちの歴史をとともに学びあえるよう、文化財や歴史資料等の保存や学習機会の充実に取り組みます。
主担当局	教育委員会			

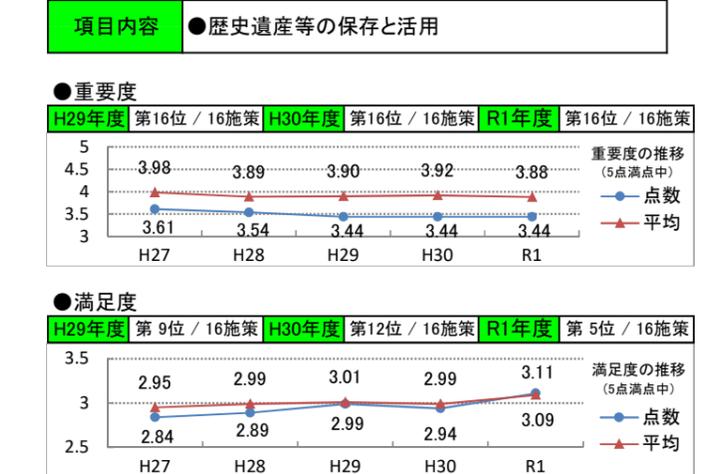
## 2 目標指標

指標名	方向	目標値 (R4)	実績値								進捗率 (R1)
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2~R4	
A 歴史や文化財等に関するボランティア活動参加延べ人数	↑	4,792 人	2,746	3,204	3,629	3,699	3,187	2,566	1,791		37.4%
B 文化財収蔵庫での展示会の観覧者数	↑	20,000 人	1,228	10,579	11,397	13,081	12,721	8,309	3,119		15.6%
C 田能資料館での展示会の観覧者数	↑	28,000 人	12,600	11,685	29,625	26,003	28,782	23,294	25,261		90.2%
D 地域研究史料館相談利用(レファレンス)人数	↑	2,345 人	1,877	2,201	2,442	2,495	2,345	2,330	1,907		81.3%
E 地域研究史料館講座・自主グループ参加人数	↑	1,212 人	870	848	820	977	1,167	1,076	1,014		83.7%

## 3 主要事業一覧

令和2年度 主要事業名	
1	城内まちづくり整備事業(歴史博物館開館事業)
2	
3	
4	
5	
令和元年度(平成31年度) 主要事業名	
1	城内まちづくり整備事業(新博物館開館準備事業)
2	
3	
4	
5	
平成30年度 主要事業名	
1	城内まちづくり整備事業
2	
3	
4	
5	

## 4 市民意識調査(市民評価)



## 5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)令和元年度実施内容を記載	
行政が取り組んでいくこと	●歴史遺産等の保存と活用
【魅力ある展示事業の展開】	(目的)尼崎の歴史資料や文化財を積極的に展示・公開することで、市民や他都市からの来訪者の尼崎の歴史・文化財に対する関心を高め、シビックプライドの醸成や観光地域づくりに貢献する。 (成果)①文化財収蔵庫は通年で休館中のため、総合文化センターや尼信会館を会場として所蔵資料を活用した展示会を開催し、田能資料館では特別展1回と企画展2回を開催した。また、令和2年度の歴史博物館開館記念展の準備のため、展示資料の借用予定先で調査を行った。(目標指標B・C) (課題)①歴史博物館の常設展示については、リピーターの獲得に向けて魅力ある展示とする工夫が必要であり、特別展・企画展については、これを目当てとして市内外から多数の来訪者が訪れるような工夫が必要である。田能資料館については歴史博物館の分館としての位置づけから、歴史博物館と連携した活動が課題である。
【市民と共に歩む博物館の構築】	(目的)歴史博物館・田能資料館の活動に参画するボランティアを積極的に養成し、市民グループとの協働も図りながら、市民と共に歩む博物館を創出していく。 (成果)②文化財収蔵庫は休館中であるが、仮事務所で行うことができる活動や、学校等に出向いて行う活動には市民ボランティアの積極的な参画を得た。地域研究史料館では、史料整理・活用を市民ボランティアとの協働で行った。田能資料館では、田能遺跡サポーター倶楽部との共催で企画展を開催するなどの活動を行った。(目標指標A) (課題)②歴史博物館開館後のボランティア養成や市民協働のあり方及び活性化、並びに持続可能な形態について検討する必要がある。また、ボランティア活動や市民協働の成果を広く発信していく必要がある。
【歴史遺産の保存と活用】	(目的)文化財や歴史資料等の収集・調査・整理を進め、地域資産として有効活用できるように保存・公開することにより、地域の歴史を学ぶ環境づくりを進める。また、歴史遺産を保存し活かす活動に取り組む市民グループ等との連携・協力を進め、地域の歴史遺産の保存・活用を図る。 (成果)③市内の指定・登録文化財件数は計116件(市指定が3件増)、文化財収蔵庫が所蔵する歴史博物館資料は27,199点(32点増)、地域研究史料館が所蔵する史料は329,713点(3,513点増)となった。史料のデジタル・アーカイブ化の一環として、新市史『たどる調べる尼崎の歴史』をWeb上で公開する準備に取り組んだ。(目標指標A・D・E) ④富松城跡を活かすまちづくり委員会との共催によるウォークイベントを実施し、富松城跡の歴史遺産としての情報発信に努めた。 (課題)③歴史的公文書等の保存・公開・活用について、全庁的な公文書管理の見直しが必要である。 ④富松城跡の歴史遺産としての価値の発信・保存活用のあり方について、市民グループや学校等と連携して検討していく必要がある。
【城内地区の魅力向上と歴史文化を活かす取組】	(目的)歴史博物館と尼崎城、中央図書館の連携による都市魅力の向上と交流人口の増加に向けた歴史文化遺産を活かす取組を推進する。 (成果)⑤歴史博物館の整備工事を進め、令和2年3月に整備工事が竣工した。 (課題)⑤城内地区の魅力向上と歴史文化を活かすまちづくりを進めていくために歴史博物館として何が出来るのか、尼崎城や中央図書館、市の観光部門やあまがさき観光局、城内地区の学校、民間事業者、地域住民とどのように連携していくのかを検討する必要がある。

## 6 評価結果

令和2年度の取組	
【魅力ある展示事業の展開】	①文化財収蔵庫の建物を改修し、令和2年10月10日に歴史博物館として開館する。歴史博物館の魅力ある常設展示を構築するため、専門業者への委託により展示パネル等を製作する。また、開館に先立ちPRを兼ねた企画展を総合文化センターで開催するとともに、開館記念事業として歴代尼崎藩主の業績を紹介する特別展を開催する。田能資料館では開館50周年を記念した特別展を開催する。
【市民と共に歩む博物館の構築】	②文化財収蔵庫・地域研究史料館において実施してきたボランティア活動を、歴史博物館の活動でも継続すると共に、ボランティア参加者の意見も聞きながら新たなボランティア活動についての検討を開始する。田能資料館では、田能遺跡サポーター倶楽部の活動の範囲を拡充し実施する。
【歴史遺産の保存と活用】	③史料の保管スペースの確保や、未整理重要文書群の活用・公開、デジタル・アーカイブ化などについて、公文書管理のあり方も含め引き続き検討していく。 ④富松城跡について、富松城跡を活かすまちづくり委員会との共催によるウォークイベントを引き続き開催するとともに、地域の学校における学習素材として富松城跡の活用についての検討を行う。
【城内地区の魅力向上と歴史文化を活かす取組】	⑤歴史博物館の前庭・公開空地の整備工事を進め、歴史博物館と中央図書館・尼崎城との間の遊歩道を整備する。また、歴史博物館の10月からの開館に合わせ、中央図書館・尼崎城との連携事業を検討し実施する。
主要事業の提案につながる項目	
【城内地区の魅力向上と歴史文化を活かす取組】	⑤小学校において、尼崎の歴史や文化財を学ぶ機会の提供に取り組む。

・歴史博物館においては、これまで収集してきた多くの歴史的古文書等を広く市民に公開し、本市の歴史を学べるよう、魅力ある常設展示や企画展を実施する。

・近現代史については観るだけでなく、自ら考えてもらえるようワークショップの実施や理解を促す展示にするなど工夫を施す。また、歴史博物館の展示をきっかけに市内の歴史・文化の拠点施設を周遊し、継続して学べる機会を提供していく。

・尼崎地域史事典(アペディア)などのWebコンテンツについても、多くの人に利用してもらえるようリンクによる誘導や周知方法を工夫し、効果的な学びにつなげる。